

ひ
火
の
やま
の
ひびき
響

有珠山副読本

火の山の響 「有珠山副読本」カード番号目次

- 有珠山が噴火した…………… 1. 地震は有珠山の赤信号
2. ほくも私も、有珠山の見張り役
3. 何を持って避難しよう
4. 避難の時には
5. あっ、山から煙が上がった!
6. 噴火とたたかうお仕事
- 噴火の頃のまちと生活…………… 7. みんなと一緒の避難所
8. 音のない世界に、手を伸ばして
9. プレハブの村で
10. 私たちのラジオ局
11. ホタテを守れ!牛を守れ!
12. みんなへつなげる私たちのまち
13. 国道に火口ができちゃった
14. 安全な交通のために
15. 私たちの中のちから
- これからの有珠山と私たち… 16. 春がまたやってきた
17. みんなに伝えよう有珠山のこと
18. 学校のお引っ越し
19. こんなまちにしよう!
- 次の噴火に備えよう…………… 20. 泥流からまちを守るために
21. 火山灰が降ってきたら
22. 噴火したら、何が起きるのだろうか?(防災マップ編)
23. 噴火したら、何が起きるのだろうか?(火山現象編)
- 有珠山の不思議…………… 24. 空から見た有珠山
25. 有珠山の成長日記
26. 江戸時代の噴火と人々
27. 昭和新山と三松さん
28. こわい火砕流・火砕サージ
29. マグマはどこからやって来たのか
- 有珠山の恵み…………… 30. 有珠山からの贈り物
31. 温泉をつくる有珠山
32. 有珠山は白鳥を招く
- 付録 有珠山噴火あれこれ…………… 有珠山周辺図、歴史時代の噴火、2000年噴火の経過、
2000年噴火の避難所、2000年噴火の仮設住宅、写真集、
火山用語集、引用資料一覧



「有珠山副読本」カードのご利用方法

カードは表と裏のA4サイズとなっています。

カード番号と題名

表

裏

項目(章ごとに色が変わります。)

1 有珠山周辺の自然

2000年3月17日に、新燃岳が噴火しました。噴火は、土や火山灰が降るだけではおぼつかず、噴火の熱によって、周囲がくまらぬほど、ほら、木の幹が焦ると、森が黒焦げになり、木が死んでしまいます。

噴火後の山には何が残ったか、写真や絵でわかるように、おぼつかず、噴火の熱によって、周囲がくまらぬほど、ほら、木の幹が焦ると、森が黒焦げになり、木が死んでしまいます。

噴火の熱によって、周囲がくまらぬほど、ほら、木の幹が焦ると、森が黒焦げになり、木が死んでしまいます。

噴火の熱によって、周囲がくまらぬほど、ほら、木の幹が焦ると、森が黒焦げになり、木が死んでしまいます。

どうして噴火の前には、地震が起きるのでしょうか?

噴火の前には、地震が起きることがあります。これは、火山の内部で、マグマが動くときに、地盤が揺れるからです。

噴火の年	噴火の種類	噴火の場所
1983年	大規模噴火	新燃岳
1984年	中規模噴火	新燃岳
1985年	小規模噴火	新燃岳
1986年	大規模噴火	新燃岳
1987年	中規模噴火	新燃岳
1988年	小規模噴火	新燃岳

では、どうして噴火の前には、地震が起きるのでしょうか?

火山の内部には、マグマが溜まっています。マグマが動くときに、地盤が揺れるからです。

調べてみよう!

3000年の噴火は、新しい噴火です。噴火の前には、地震が起きることがあります。

火山用語: 噴火の熱によって、周囲がくまらぬほど、ほら、木の幹が焦ると、森が黒焦げになり、木が死んでしまいます。

キャラクターまぐま君

作文: 有珠山周辺に暮らす子どもやまちの人たちが書いた作文です。(子どもの学年は、執筆当時の学年です。)

コーナー: 「調べてみよう」「行ってみよう」などのコーナーがあります。

火山用語: 火山や噴火に関する難しい言葉を説明します。

ほくは「有珠山副読本」のキャラクター「まぐま」です。有珠山のことをみんなでいっしょに楽しく、勉強していこう。



まぐま君がいるんな姿で登場するよ!

引用資料一覧

資料提供機関一覧

伊達市

伊達市社会福祉協議会（『伊達ボランティアセンターの記録』）

J A 伊達

北海道ろうあ連盟・伊達聴力障害者協会（『有珠山噴火災害 聴覚障害者支援活動の記録』）

虻田町（『虻田町史』など）

虻田町教育委員会（『火の山有珠』）

虻田町立洞爺湖温泉中学校（『噴煙』『石の雨』）

虻田町社会福祉協議会（『山が動いた』）

虻田漁業共同組合

社警町

社警町立社警小学校（『伝えようあの日のことを』）

胆振支庁

北海道建設部（『有珠山噴火1年の軌跡』）

北海道警察本部（『「はまなず隊」の活動記録』など）

北海道防災会議火山対策部会火山対策専門委員会（『有珠火山防災マップ』）

北海道開発局（『有珠山噴火災害報告』など）

北海道大学大学院理学研究科附属地震火山研究観測センター 有珠火山観測所

北海道大学図書刊行会（『有珠山—その変動と災害』）

陸上自衛隊北部方面総監部

国土地理院

経済産業省/(財)資源・環境観測解析センター

島原市

東京都

三松正夫記念館（『火山ハンドブック』など）

室蘭民報社（『有珠山—平成噴火とその記録—』など）

北海道旅客鉄道株式会社（『有珠山噴火 鉄道輸送の挑戦』）

社団法人プレハブ協会（『有珠山噴火仮設住宅建設の記録2000』）

写真・図版提供者一覧

宇井忠英（北海道大学）、佐茂厚美、杉本伸一（島原市）、寺澤和彦（北海道立林業試験場）、
東京昭彦（産業技術総合研究所）、戸羽敏捷、二橋愛次郎、道下みちこ、渡辺晶子 【五十音順】

【作文の執筆者について】

作文の執筆者は、作文の直下に記しています。なお、執筆者の所属・学年は、執筆当時のものです。

ご協力ありがとうございました。

有珠火山防災教育副読本



作成検討会メンバー 座長 宇井 忠英 北海道大学大学院理学研究科教授
三松 三朗 三松正夫記念館館長
山田 秀人 伊達市立有珠小学校教諭
安藤 忍 伊達市立有珠中学校教諭
佐茂 厚美 虻田町立洞爺湖温泉小学校教諭
街道 力朗 虻田町立虻田中学校教諭
三品 辰雄 社警町立社警小学校教諭
北野 雄介 社警町立社警中学校教諭
北沢 久和 社警町立社警中学校教諭

アドバイザー (五十音順)

池谷 浩 砂防・地すべり技術センター専務理事
伊藤 和明 NPO法人 防災情報機構会長
岡田 弘 北海道大学大学院理学研究科教授
田村 亨 室蘭工業大学工学部教授
廣井 脩 東京大学社会情報研究所長

発行日 2003年3月初版

製作・発行 有珠火山防災教育副読本作成検討会

問合わせ先 財団法人 北海道地域総合振興機構

札幌市中央区北5条西6丁目 札幌センタービル13階

電話 011(205)5011